

GP-Pro EX転送補足・接続キー設定

(システムの組み合わせとトラブルシューティング)

ユーザーガイド

EX-CONKEY-MM01-JA.01

9/2025

法律情報

本書に記載されている情報は、製品/ソリューションに関する一般的な説明、技術的特性、および推奨事項を含んでいます。

本書は、詳細な調査や運用/現場別の開発計画や概略図の代用となるものではありません。また、特定ユーザーの用途に対する製品/ソリューションの適合性または信頼性を判断するために使用すべきものではありません。関連する特定の用途または使用に関して製品/ソリューションの適切かつ包括的なリスク分析、評価、および試験を行うこと、または選択した専門家（インテグレーター、設計者等）に実施させることは、当該ユーザーの義務とします。

本書で言及されているPro-faceブランドならびにシュナイダーエレクトリックSEおよびその子会社の商標は、シュナイダーエレクトリックSEまたはその子会社の所有物です。その他すべてのブランドは、各所有者の商標である場合があります。

本書およびその記載内容は、該当する著作権法で保護されており、情報提供のみを目的とし提供されています。本書のいかなる部分も、いかなる形式や手段（電子的、機械的、複写、記録、またはその他）によっても、どのような目的であっても、シュナイダーエレクトリックから書面による事前の許可を得ずに、再製または頒布することはできません。

シュナイダーエレクトリックは、「現状のまま」文書を調べる非独占な個人ライセンスを除き、本ガイドまたはその記載内容を商業的に使用する権利またはライセンスを付与することはありません。

シュナイダーエレクトリックは、本書の内容またはその形式に関して、いつでも予告なく変更または更新する権利を有します。

適用法により認められる範囲で、シュナイダーエレクトリックおよびその子会社は、本書の情報コンテンツの誤りや記入漏れまたは本書に含まれる情報の使用に起因する結果、もしくはその結果から生じる結果に関し、一切責任を負いません。

目次

安全に関する使用上の注意	4
重要情報	4
本書について	5
本書の適用範囲	5
有効性に関する注意	5
製品関連情報	5
一般的なサイバーセキュリティ情報	6
製品関連のサイバーセキュリティ情報	6
このドキュメントで使用可能な言語	6
関連マニュアル	6
非包括的または差別的な用語に関する情報	6
登録商標	6
サイバーセキュリティ	7
サイバーセキュリティガイドライン	7
概要	8
接続キーとは	8
システムバージョンとは	8
転送手順組み合わせ一覧表	10
手順1	12
手順2	13
手順3	13
手順4	13
手順5	14
手順6	16
手順7	17
制限事項	20
トラブルシューティング	21
接続キーを設定しているのにかわらず表示器上で接続キーの設定を要求する画面が表示される	21
接続キーを忘れてしまって転送できない	22
エラーメッセージ「RAAA181：接続を中断しました。接続元が接続キーに対応していません」が表示器画面上に表示された	23
原因	24
対策	24
エラーメッセージ「RAAA203：システムの起動中に問題が発生しました。転送ツールからプロジェクトデータを強制転送して下さい。」が表示器画面上に表示された	25
原因	25
対策	25

安全に関する使用上の注意

重要情報

本書をよくお読みいただき、装置の正しい取り扱いと機能を十分ご理解いただいた上で、設置、操作、保守を行ってください。本書および装置には以下の表示が使われています。これらは潜在的な危険を警告したり、手順を明確化あるいは簡素化する情報について注意を呼びかけるものです。



この記号が危険または警告安全ラベルに追加されると、電氣的危険が存在し、指示に従わないと人身傷害の危険があることを示します。



これは安全アラート記号です。潜在的な身体の障害危険を警告するために使用されます。傷害や死亡事故を回避するために、この記号に続くすべての安全メッセージを遵守してください。

危険

危険は、危険が生じる可能性のある状況を示します。回避しないと、死亡や重傷を招きます。

警告

警告は、危険が生じる可能性のある状況を示します。回避しないと、死亡や重傷を招くおそれがあります。

注意

注意は、危険が生じる可能性のある状況を示します。回避しないと、軽傷を招くおそれがあります。

注記

注記は、指示に従わないと物的損害を負う可能性があることを示します。

本書について

本書の適用範囲

GP-Pro EXから表示器にプロジェクト転送する際に、表示器本体の状態とGP-Pro EXのバージョンの組み合わせによって転送時の接続キーの設定や認証の扱いが変わります。

本書では各組み合わせでの転送方法、および接続キーに関連する転送の制限事項およびトラブルシューティングを説明します。

有効性に関する注意

本書はGP-Pro EXの接続キーを対象として書かれています。

本書に記載されている製品の特性は、www.pro-face.comに掲載されている特性と一致することを意図しています。継続的改善を目指す当社の企業戦略の一環として、情報をより明確かつ正確なものにするため内容を改訂させていただく場合があります。この文書に記載されている特性と、www.pro-face.comに記載されている特性が異なる場合は、www.pro-face.comに最新の情報が記載されているとお考えください。

製品関連情報

GP-Pro EXを正しく安全にお使いいただくために安全表記が記述されています。本書ならびに関連マニュアルをよくお読みいただき、GP-Pro EXの正しい取り扱い方法と機能を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

警告

装置の意図しない動作または制御不能

- タッチパネル上のスイッチを使用して、人的や物的損害につながるスイッチを作らないでください。表示器本体、ユニット、ケーブルなどの故障により出力がONし続けたり、OFFし続けたりし重大な事故につながります。重大な事故につながる出力信号についてはリミッタなどの監視回路を設けてください。また、重大な動作を行うスイッチは表示器本体以外の装置より行うようにシステム設計をしてください。誤出力、誤動作による事故のおそれがあります。
- タッチパネル上のスイッチは非常用停止スイッチとして使えません。産業用ロボットほか、産業用機械の非常停止スイッチは、必ず人間が直接操作するスイッチを設置することが義務づけられています。また、これ以外の装置でも安全確保のために、必ず同様のスイッチを設置してください。

上記の指示に従わないと、死亡、重傷、または物的損害を負う可能性があります。

警告

データの損失

- プログラム使用中に、パソコン本体の電源をOFFしないでください。プロジェクトファイルが破損するおそれがあります。
- テキストエディタなどを使用して、プロジェクトファイルの中身を変更しないでください。プロジェクトファイルが破損するおそれがあります。
- 表示器上でプロジェクトファイルを変更する機能を使用中に、表示器の電源OFFやリセットを行わないでください。プロジェクトファイルが破損するおそれがあります。

上記の指示に従わないと、死亡、重傷、または物的損害を負う可能性があります。

一般的なサイバーセキュリティ情報

近年、ネットワークに接続されているパソコンや生産プラントの数が増加するにつれ、不正アクセス、データ漏洩、操業中断などのサイバー脅威の可能性が高まっています。したがって、このような脅威から資産やシステムを保護するために、あらゆるサイバーセキュリティ対策を考慮する必要があります。

Pro-face 製品を安全に保護するために、[Cybersecurity Best Practices](#) のドキュメントに記載されているサイバーセキュリティのベストプラクティスを実施することが最善策になります。

Pro-faceは、追加情報およびサポートを提供しています。

- [更新情報](#) ページからセキュリティ通知をご確認ください。
- 脆弱性およびインシデントについては、[お問い合わせ窓口](#)からご連絡ください。

製品関連のサイバーセキュリティ情報

サイバーセキュリティ(Page.7)を参照してください。

このドキュメントで使用可能な言語

本書は以下の言語でご覧いただけます。

- 英語 (EX-CONKEY-MM01-EN)
- 日本語 (EX-CONKEY-MM01-JA)

関連マニュアル

ドキュメントのタイトル	参照番号
サイバーセキュリティのベストプラクティス	一般的なサイバーセキュリティ情報 (Page.6)を参照してください。
Pro-face HMI/IPC サイバーセキュリティガイド	PFHMIIPCCS-MM01-EN (英語) PFHMIIPCCS-MM01-JA (日本語)

ソフトウェアマニュアルなど本製品に関連するマニュアルは、Pro-faceダウンロードページ (www.pro-face.com/trans/ja/manual/1085.html) からダウンロードできます。

非包括的または差別的な用語に関する情報

弊社は、責任ある、ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)を掲げた企業として、非包括的または差別的な用語を含む文書および製品を順次更新しております。このように努めてはおりますが、弊社が提供するコンテンツに、お客様が不適切と感じる可能性のある用語が含まれている場合がございますことをご了承ください。

登録商標

Microsoft および Windows は、米国およびその他の国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Intel®、Core TM、Celeron®はIntel Corporation の登録商標です。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

本書に記載の製品名は、それぞれの権利者の登録商標である場合があります。

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティガイドライン

本製品は、セキュアな産業制御システムの下で使用してください。サイバー攻撃の脅威からコンポーネント（装置/デバイス）、システム、組織、およびネットワークを総体的に保護するためには、多層的なサイバーリスク低減措置、インシデントの早期発見、インシデント発生時の適切な対処と復旧計画が必要です。サイバーセキュリティの詳細については、Pro-face HMI/IPC サイバーセキュリティガイドを参照してください。

https://www.proface.com/ja/download/manual/cybersecurity_guide

警告

システムの可用性、完全性、機密性に対する潜在的な侵害

- デバイスの設定、制御、および情報への不正アクセスを防ぐために、初回使用時に既定のパスワードを変更してください。
- 悪意のある攻撃の経路を最小限に抑えるため、可能な限り、使用していないポート / サービスおよびデフォルトアカウントを無効にしてください。
- ネットワークに接続されたデバイスは、多層のサイバー防御層（ファイアウォール、ネットワークセグメンテーション、およびネットワーク侵入検知と保護など）の背後に配置してください。
- 最新のアップデートと修正プログラムをオペレーティングシステムとソフトウェアに適用してください。
- サイバーセキュリティのベストプラクティス（例：最低限の権限、職務の分離）を使用して、データやログの不正な漏洩、損失、および改ざん、サービスの中断、または意図しない操作を防止してください。

上記の指示に従わないと、死亡、重傷、または物的損害を負う可能性があります。

概要

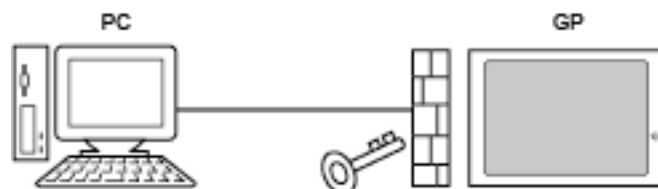
接続キーとは

接続キーは表示器がGP-Pro EXの転送ツール、Pro-Server EX、およびGP-Viewer EXとの通信を許可するためのキーです。

GP-Pro EX Ver.4.09.200以上で転送する場合に接続キーの設定が必要になります。

接続キーは表示器ごとに設定します。

接続キーを設定すると、プロジェクトデータの送受信や表示器の画面をパソコン上に表示するなどの操作を行う前にキーによる認証が必要になります。



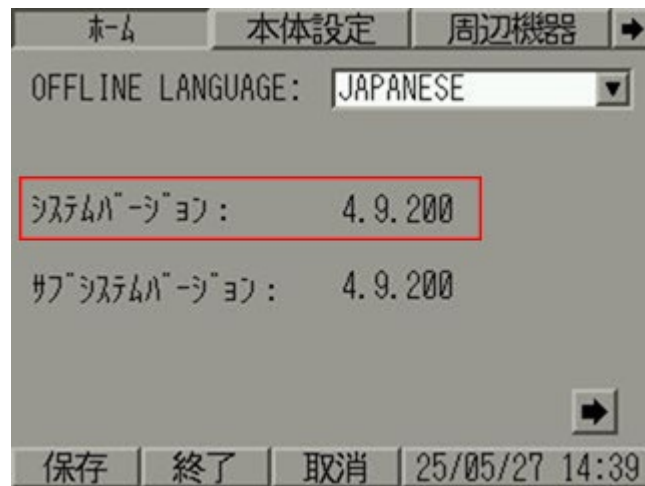
- 接続キーを忘れると表示器に接続できなくなります。
- 初回の接続キー設定は初めてプロジェクトを転送（送信）する際に行います。接続キーの変更や使用するかどうかの設定はオフラインモードで行います。
- 接続キーは以下の要件をすべて満たす必要があります。
 - 8文字以上、100文字以下
 - 小文字(a-z)、大文字(A-Z)、数字(0-9)、特殊文字（` `）~!@#\$%&:;.,_-{}*+=|<>?[]"/¥^）をそれぞれ1つ以上使用する
- [接続キー認証]ダイアログボックスが表示された状態で3分経過、またはキーを間違えると強制的に接続を中止します。
- 転送ツールで以下の操作を行う場合に接続キーの入力が必要です。
 - [プロジェクト送信]、[プロジェクト受信]、[プロジェクト比較]、[本体情報]、[CF/SDカード接続]、[拡張レシピ転送]、[セキュリティデータ送信]、[セキュリティデータ受信]
- ユーザーメモリを初期化すると接続キーが削除されます。初期化後に初めて表示器を起動すると接続キーの設定画面が表示されます。接続キーを再度設定してください。

システムバージョンとは

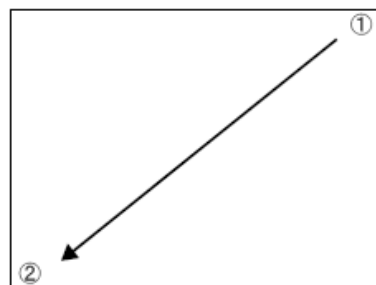
システムバージョンとは表示器にインストールされているランタイムのバージョンを指します。システムバージョンによってプロジェクト転送時の接続キーの設定で注意すべき点が変わってきます。

システムバージョン確認方法（プロジェクト転送済みの場合）

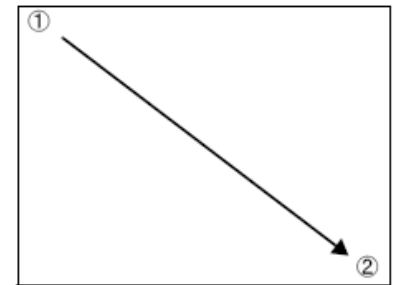
オフラインモードの[ホーム]でシステムバージョンが確認できます。



オフラインモードへの入り方は、パネルの右上隅→左下隅または左上隅→右下隅(縦横40ドット以内)の順に0.5秒以内にタッチします。



または



MEMO: SP5000シリーズオープンボックスまたはIPCシリーズでWinGPをご使用の場合は、パネルの右上隅→左下隅または左上隅→右下隅(縦横40ドット以内)の順に5秒以内にタッチします。

システムバージョン確認方法 (プロジェクト未転送の場合)

表示器本体電源投入時に表示される画面でシステムバージョンを確認できます。



転送手順組み合わせ一覧表

接続キーは表示器がGP-Pro EXの転送ツール、Pro-Server EX、およびGP-Viewer EXとの通信を許可するためのキーです。

表の見かたは以下の通りです。

- **表示器:** 転送先の表示器です。各グループに該当する表示器は以下の通りです。
 - グループ1: GP6000シリーズ、ST6000シリーズ、STM6000シリーズ、STC6000シリーズ、ET6000シリーズ、SP5000シリーズ
 - グループ2: GP4000シリーズ、GP4000Hシリーズ、IoT Gateway (GP4000Mシリーズ、GP41**を除く)
 - グループ3: LT4000シリーズ、GP-4100シリーズ (カラーモデル)
- **表示器のシステムバージョン:** 転送前の表示器のシステムバージョンです。システムバージョンの確認方法は、「システムバージョンとは」(Page.8)を参照してください。
- **前回転送:** 転送前の表示器の状態です。
 - あり: 表示器にプロジェクトを転送している状態を指します。
 - なし: これまで表示器にプロジェクトを転送したことがなく、[初期転送モード]画面または[Welcome]画面が表示されている状態を指します。



- **GP-Pro EXバージョン:** 転送に使用するGP-Pro EX(転送ツール)のバージョンです。
- **手順:** 参照先の手順番号です。

#	表示器	表示器のシステムバージョン	前回転送	GP-Pro EX バージョン	手順
1	グループ 1	4.9.13 以下	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
2				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
3			あり	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
4				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
5		4.9.38 以上	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
6				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
7			あり	4.09.120 以下	手順 2 (Page.13)
8				4.09.200 以上	手順 4 (Page.13)

9	グループ 2 ^{*1}	4.9.2 以下	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
10				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
11			あり	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
12				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
13		4.9.10 以上 4.9.13 以下	あり	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
14				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
15		4.9.38 以上 4.9.89 以下	あり	4.09.120 以下	手順 2 (Page.13)
16				4.09.200 以上 4.09.500 以下	手順 4 (Page.13)
17				4.09.550 以上 4.09.600 以下	手順 6 (Page.16)
18				5.00.000 以上	手順 4 (Page.13)
19		4.9.92, 4.9.100	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
20				4.09.200 以上 4.09.550 以下	手順 3 (Page.13)
21				4.09.600	手順 5 (Page.14)
22				5.00.000 以上	手順 3 (Page.13)
23			あり (4.09.120 以下で転送)	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
24				4.09.200 以上 4.09.500 以下	手順 5 (Page.14)
25				4.09.550 以上 4.09.600 以下	手順 6 (Page.16)
26				5.00.000 以上	手順 5 (Page.14)
27			あり (4.09.200 以上で転送)	4.09.120 以下	手順 2 (Page.13)
28				4.09.200 以上 4.09.500 以下	手順 4 (Page.13)
29				4.09.550 以上 4.09.600 以下	手順 6 (Page.16)
30				5.00.000 以上	手順 4 (Page.13)
31		4.9.102	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
32				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)

33			あり (4.09.120 以下で転送)	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
34				4.09.200 以上	手順 5 (Page.14)
35			あり (4.09.200 以上で転送)	4.09.120 以下	手順 2 (Page.13)
36				4.09.200 以上	手順 4 (Page.13)
37		4.9.106 以上	あり	4.09.120 以下 *2	手順 2 (Page.13)
38				4.09.200 以上 *2	手順 4 (Page.13)
39	グループ 3 ^{*3}	4.9.106 以下	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
40				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
41			あり	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
42				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
43		4.9.107, 4.9.113	なし	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
44				4.09.200 以上	手順 3 (Page.13)
45			あり (4.09.120 以下で転送)	4.09.120 以下	手順 1 (Page.12)
46				4.09.200 以上	手順 7 (Page.17)
47			あり (4.09.200 以上で転送)	4.09.120 以下	手順 2 (Page.13)
48				4.09.200 以上	手順 4 (Page.13)
49		4.9.123 以上	あり	4.09.120 以下	手順 2 (Page.13)
50				4.09.200 以上	手順 4 (Page.13)

*1. Ver.4.09.400未満の機種にVer.4.09.400以上で作成したプロジェクトを転送すると表示器のOSがバージョンアップされます。なお、[こちらのバージョン](#)に該当する機種は以前のバージョンに戻すことができませんのでご注意ください。

*2. [こちらのバージョン](#)に該当する機種は、GP-Pro EX Ver.4.09.350以下からは転送できません。Ver.4.09.400以上で転送してください。

*3. Ver.4.09.450未満のLT4000シリーズにVer.4.09.450以上で作成したプロジェクトを転送すると表示器のOSがバージョンアップされます。表示器のバージョンによっては以前のバージョンに戻すことができませんのでご注意ください。

MEMO: 転送の操作手順はGP-Pro EXリファレンスマニュアルの「[34 転送](#)」を参照してください。

手順1

転送ツール側、および表示器に接続キーの設定が存在しないため、転送時に接続キーの設

定または認証は不要です。

手順2

前回の転送で、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで[接続キーを転送時に確認する]のチェックが外れた状態で転送した場合



転送ツール側、および表示器に接続キーの設定が存在しないため、転送時に接続キーの設定または認証は不要です。

表示器側で接続キーを設定済みの場合

外部ストレージを使って転送する必要があります。

外部ストレージ以外の方法で転送すると、システムエラーRAAA181が表示器画面上に表示され、転送に失敗します。

外部ストレージを使って転送する場合、接続キーの設定または認証は不要です。転送後、表示器の接続キーはクリアされます。

手順3

転送中に転送ツール側で接続キー設定を要求する画面が表示されます。

外部ストレージを使用して転送する場合、表示器再起動後に接続キーの設定を要求する画面が表示器上に表示されます。

重要: システムエラーRAAA203が表示器画面上に表示された場合、外部ストレージを使用して強制転送してください。その他の方法では転送できません。詳細は、「エラーメッセージ「RAAA203: システムの起動中に問題が発生しました。転送ツールからプロジェクトデータを強制転送して下さい。」が表示器画面上に表示されたが表示器画面上に表示された」(Page.25)を参照してください。

MEMO: GP-Pro EX Ver.4.09.350以上で外部ストレージを使用して転送する場合、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで接続キーの初期値を登録しておく、転送後に接続キー設定の入力が不要になります。転送中に接続キーが設定されます。



手順4

前回の転送で、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで[接続キーを転送時に確認する]のチェックが

外れた状態で転送した場合



転送中に転送ツール側で接続キー設定を要求する画面が表示されます。

外部ストレージを使用して転送する場合、表示器再起動後に接続キーの設定を要求する画面が表示器上に表示されます。

MEMO: GP-Pro EX Ver.4.09.350以上で外部ストレージを使用して転送する場合、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで接続キーの初期値を登録しておく、転送後に接続キー設定の入力が不要になります。転送中に接続キーが設定されます。



表示器側で接続キーを設定済みの場合

転送中に転送ツール側で接続キーの認証を要求する画面が表示されますので、設定した接続キーを入力してください。

外部ストレージを使用して転送する場合、表示器上に接続キーの認証を要求する画面が表示されます。

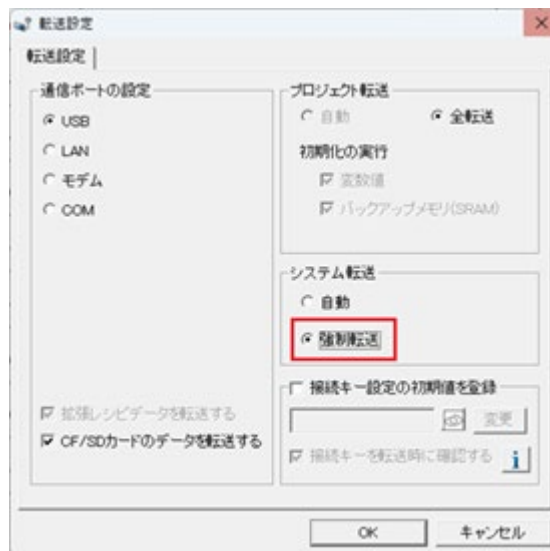
MEMO: 設定した接続キーを忘れてしまった場合、「接続キーを忘れてしまって転送できない」(Page.22)を参照してください。

手順5

初回の転送では接続キーが有効化されないため、再度転送が必要です。

以下の手順を参照してください。

重要: GP-Pro EX Ver.4.09.200以上4.09.350以下をご使用の場合は、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスにある[システム転送]から[強制転送]を選択してください。[自動転送]を選択すると、接続キーが表示器に設定されません。



1. 転送ツールからプロジェクトを転送します(1回目)。
転送後に表示器が再起動し、接続キーの設定を要求する画面が表示器上に表示されます。

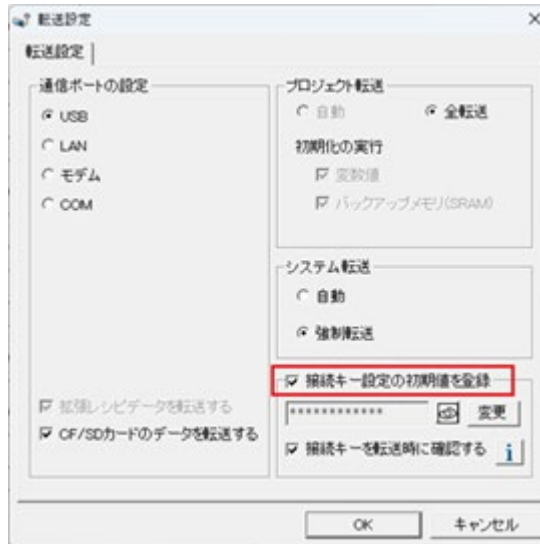


重要: 表示器システムバージョン、転送ツールバージョン、および前回転送の状態の組み合わせによっては、表示器電源投入時に最初に表示する画面（初期画面）が表示される場合がありますが、かならず次の手順を実施してください。

2. 再度プロジェクトを転送します(2回目)。転送中に転送ツール側で接続キーの設定を要求する画面が表示されます。
転送後に表示器が再起動し、初期画面が表示されます。この時点で接続キーが表示器に設定され、転送が完了になります。

重要: システムエラーRAAA203が表示器画面上に表示された場合、外部ストレージを使用して強制転送してください。その他の方法では転送できません。
詳細は、「エラーメッセージ」RAAA203：システムの起動中に問題が発生しました。転送ツールからプロジェクトデータを強制転送して下さい。」が表示器画面上に表示されたが表示器画面上に表示された」(Page.25)を参照してください。

MEMO: GP-Pro EX Ver.4.09.350以上で外部ストレージを使用して転送する場合、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで接続キーの初期値を登録しておくと、転送後に接続キー設定の入力が不要になります。転送中に接続キーが設定されます。



手順6

転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスにある[システム転送]から[強制転送]を選択してください。[自動転送]を選択すると、接続キーが表示器に設定されません。



初回および2回目の転送では接続キーが有効化されないため、3回の転送が必要です。

表示器側で接続キーを設定済みの場合でも、接続キーの再設定が必要になるため、3回の転送が必要です。

以下の手順を参照してください。

1. 転送ツールからプロジェクトを転送します(1回目)。

転送後に表示器が再起動し、初期画面が表示されますが、この時点では転送ツールで設定した接続キーが反映されていません。

MEMO: 転送条件の組み合わせによってはこの時点で接続キーの設定を要求する画面が表示器上に表示される場合があります。その場合は手順3から参照してください。

2. 再度プロジェクトを転送します(2回目)。

転送後に表示器が再起動し、接続キーの設定を要求する画面が表示器上に表示されます。



3. 再度プロジェクトを転送します(3回目)。転送中に転送ツール側で接続キーの設定を要求する画面が表示されます。

転送後に表示器が再起動し、初期画面が表示されます。この時点で接続キーが表示器に設定され、転送が完了になります。

重要: システムエラー-RAAA203が表示器画面上に表示された場合、外部ストレージを使用して強制転送してください。その他の方法では転送できません。詳細は、「エラーメッセージ「RAAA203：システムの起動中に問題が発生しました。転送ツールからプロジェクトデータを強制転送して下さい。」が表示器画面上に表示されたが表示器画面上に表示された」(Page.25)を参照してください。

MEMO: GP-Pro EX Ver.4.09.350以上で外部ストレージを使用して転送する場合、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで接続キーの初期値を登録しておくと、転送後に接続キー設定の入力が不要になります。転送中に接続キーが設定されます。

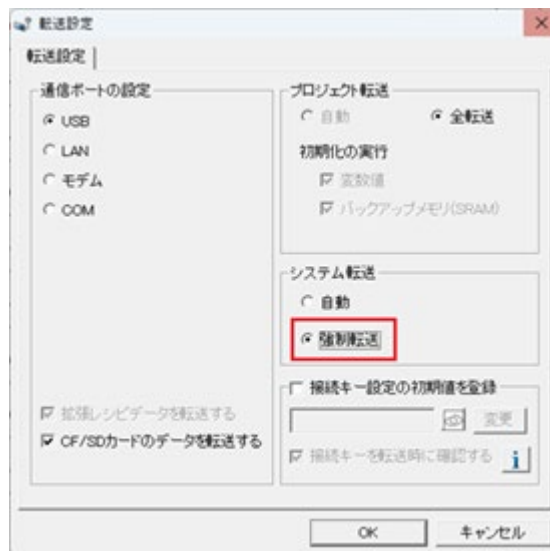


手順7

初回の転送では接続キーが有効化されないため、再度転送が必要です。

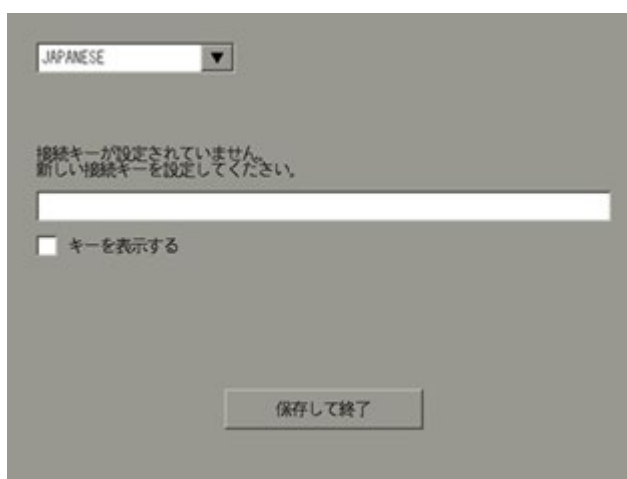
以下の手順を参照してください。

重要: GP-Pro EX Ver.4.09.200以上4.09.350以下をご使用の場合は、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスにある[システム転送]から[強制転送]を選択してください。[自動転送]を選択すると、接続キーが表示器に設定されません。



1. 転送ツールからプロジェクトを転送します(1回目)。

転送後に表示器が再起動し、初期画面が表示されますが、この時点では転送ツールで設定した接続キーが反映されていません。



2. 再度プロジェクトを転送します(2回目)。転送中に転送ツール側で接続キーの設定を要求する画面が表示されます。

→転送後に表示器が再起動し、初期画面が表示されます。この時点で接続キーが表示器に設定され、転送が完了になります。

MEMO: GP-Pro EX Ver.4.09.350以上で外部ストレージを使用して転送する場合、転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスで接続キーの初期値を登録しておくと、転送後に接続キー設定の入力が不要になります。転送中に接続キーが設定されます。



制限事項

- GP-Pro EXリファレンスマニュアルに記載されている制限事項もご確認ください。

[制限事項](#)

- GP-Pro EX Ver.4.09.120以下で転送した場合は、転送ツールでプロジェクトを表示器に転送後、表示器が再起動します。再起動後初期画面が表示されるまで電源を切らないことを推奨します。また再起動後10秒前後に電源を切らないように注意してください。
- GP-Pro EX Ver.4.09.200以上(システムバージョン4.9.38以上)の表示器内のプロジェクトを外部ストレージにバックアップしてほかの表示器に転送する際、接続キーが設定されません。

トラブルシューティング

接続キーを設定しているのにかわらず表示器上で接続キーの設定を要求する画面が表示される



原因および対策

原因	対策
グループ 2 (Page.11) またはグループ 3 (Page.12) の機種の Welcome 画面に対して、GP-Pro EX Ver.4.09.120 以下でプロジェクトを転送後、GP-Pro EX Ver.4.09.200 以上の転送ツールで [接続キー設定の初期値を登録] を有効にした状態で転送したときに再度画面が表示される場合があります。 MEMO: [接続キー設定の初期値を登録] の詳細は、GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。 34.12.1.1 転送設定	画面上で接続キーを設定してから再度転送してください。以後の転送では、設定した接続キーによる認証が必要になります。
ユーザーメモリを初期化すると接続キーも消去されるため、この画面が表示されます。	
GP-Pro EX Ver.4.09.120 以下の転送ツールでプロジェクトを転送後、表示器の再起動後 10 秒前後に電源を切ると画面が表示される場合があります。	表示器画面上で接続キーを設定後、オフラインモードの [セキュリティ設定] から接続キーを無効に設定して、再度転送してください。 [セキュリティ設定] の設定方法は、以下の手順を実施してください。 1. オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [セキュリティ設定] をタッチします。 2. [セキュリティ設定] が開くので [接続キー] をタッチします。 3. [接続キー] が開きます。[現在の接続キーを入力してください] をタッチするとキーボードが表示されるので現在のキーを入力します。

システム パスワード	セキュリティ パスワード	接続キー		
現在の接続キーを入力してください				
☐ キーを表示する				
終了 戻る 2020/10/13 19:09:19				

4. [接続キーを転送時に確認する]のチェックボックスを外します。

システム パスワード	セキュリティ パスワード	接続キー		
現在の接続キーを入力してください				
☐ キーを表示する				
☒ 接続キーを転送時に確認する				
☒ 接続キーを変更する				
☐ キーを表示する				
終了 戻る 2020/10/13 19:11:04				

5. [終了]をタッチします。

接続キーを忘れてしまって転送できない

対策

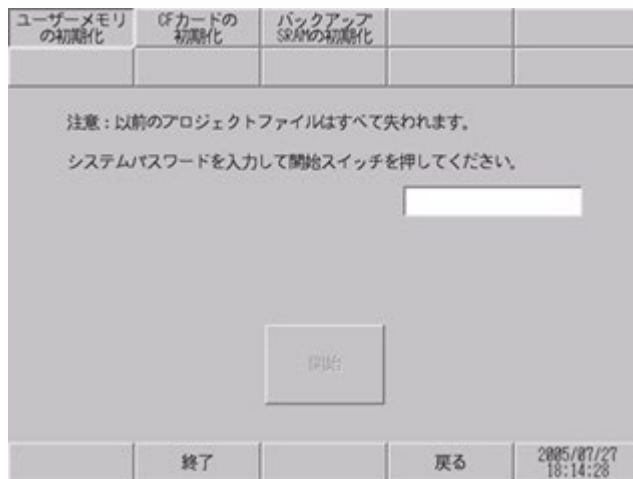
- ユーザーメモリを初期化してください。

重要:

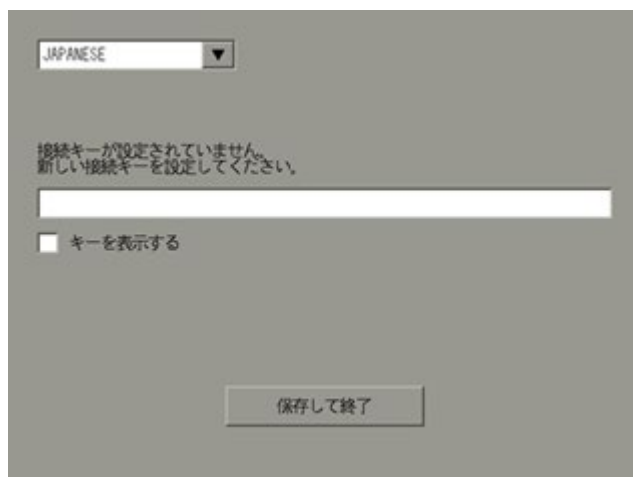
- 「開始」を押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップメモリ(SRAM)のデータも消去されます。GP-4100シリーズ(GP-411*T3を除く)の場合は仮想バックアップメモリのデータも消去されます。
- 初期化を行っても、表示器のシステム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データは消去されません。
- ロジックプログラムの保持データもすべて消去されます。

以下の手順を実施してください。

- オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[初期化メニュー]をタッチします。
- [初期化メニュー]が開くので[ユーザーメモリの初期化]をタッチします。
- [ユーザーメモリの初期化]が開くので入力枠をタッチし、キーボードで「1101」([システムパスワード]が[無]の場合のみ)または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。

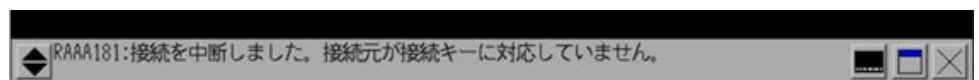


4. [開始]をタッチします。
5. 初期化が完了したら[閉じる]をタッチします。
6. 画面下部の[終了]をタッチし、本体を再起動します。
7. 画面に「接続キーが設定されていません。新しい接続キーを設定してください」というメッセージが表示されていることを確認します。



8. 接続キーを設定してから転送を行ってください。
- グループ1(Page.10)の機種を使用している場合、GP-Pro EX Ver.4.09.120以下で外部ストレージを使って転送して、表示器のシステムバージョンダウンを行い、4.09.200以上の転送ツールで強制転送による再転送すれば接続キーの再設定が可能です。

エラーメッセージ「RAAA181：接続を中断しました。接続元が接続キーに対応していません」が表示器画面上に表示された





原因

接続キーをサポートしていないバージョンの転送ツールから、接続キーをサポートしている状態の表示器にプロジェクトを転送した場合に発生します。

対策

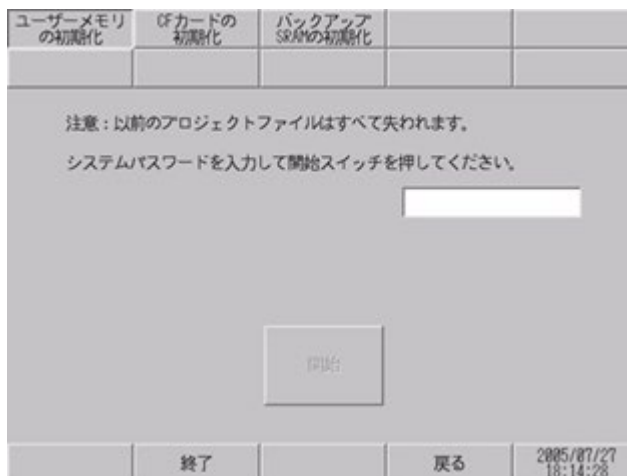
- GP-Pro EX Ver.4.09.200以上の転送ツールを使用してください。
- 外部ストレージを使って転送してください。
- 表示器のユーザーメモリを初期化することでVer.4.09.200未満からでも転送できることがあります。

重要:

- 「開始」を押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップメモリ(SRAM)のデータも消去されます。GP-4100シリーズ(GP-411*T3を除く)の場合は仮想バックアップメモリのデータも消去されます。
- 初期化を行っても、表示器のシステム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データは消去されません。
- ロジックプログラムの保持データもすべて消去されます。

以下の手順を実施してください。

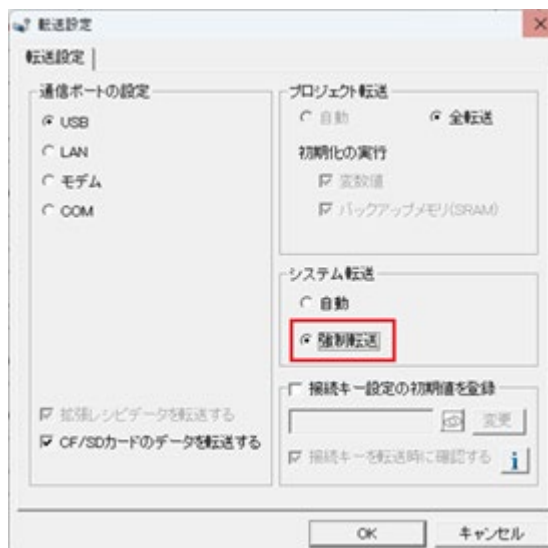
1. オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[初期化メニュー]をタッチします。
2. [初期化メニュー]が開くので[ユーザーメモリの初期化]をタッチします。
3. [ユーザーメモリの初期化]が開くので入力枠をタッチし、キーボードで「1101」([システムパスワード]が[無]の場合のみ)または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。



4. [開始]をタッチします。
5. 初期化が完了したら[閉じる]をタッチします。
6. 画面下部の[終了]をタッチし、本体を再起動します。
7. 画面に「接続キーが設定されていません。新しい接続キーを設定してください」というメッセージが表示されていることを確認します。



8. 転送ツールの[転送設定]ダイアログボックスにある[システム転送]から[強制転送]を選択してください。



9. プロジェクトを転送します。

重要: グループ2(Page.11)の表示器では、GP-Pro EX Ver.4.09.400未満では転送できない場合があります。ご使用の本体リビジョンに依存します。該当する場合、上記手順は利用できません。

エラーメッセージ「RAAA203：システムの起動中に問題が発生しました。転送ツールからプロジェクトデータを強制転送して下さい。」が表示器画面上に表示された

原因

転送したプロジェクトに含まれるシステムプログラムに問題を確認しました。

対策

- 転送ツールから強制転送を実施してください。

- 強制転送できない場合は、外部ストレージを使用して転送を実施してください。
以下の手順を実施してください。

1. 外部ストレージをパソコンに挿入します。
2. 転送ツールから[メモリロード]を選択します。



3. [メモリロード]から[バックアップデータの作成]を選択します。
4. [出力先の選択]から外部ストレージの直下を指定して[OK]をクリックします。
5. 外部ストレージを表示器に挿入します。
6. 表示器に表示されているエラー画面から外部ストレージ名のボタンをクリックします。

シュナイダーエレクトリックホールディングス株式会社

大阪府大阪市中央区北浜4-4-9

541-0041 日本

+ 81(0) 50 4561 4800

www.proface.com

規格、仕様、設計は時々で変更されるため、この出版物に含まれる情報は必ず確認を取ってください。

© 2025-シュナイダーエレクトリックホールディングス株式会社. 著作権保有

EX-CONKEY-MM01-JA.01